

保健体育科学学習指導案

日 時 令和元年5月31日（金）公開授業 I
 学 級 岩手大学教育学部附属中学校
 1年D組（男子18名 女子17名）
 会 場 体育館
 授業者 加 賀 智 子

1 単元名 球技 イ ネット型 バレーボール

2 単元について

(1) 生徒観

対象の学級は男子16人、女子10人が運動部に所属している学級で、3割近い生徒が文化部に所属しているため日常の運動実施時間や運動経験が少ない傾向にある。バレーボール部員は男子1名、女子1名である。また、小学校時にはボールやコートの大さき、ネットの高さ、ルールを工夫したバレーボールの学習を行ってきた生徒がほとんどである。

事前の実態調査において、「運動することが好きか」尋ねたところ「はい」と回答した生徒は男子16名、女子15名であった。「バレーボールが好きか」尋ねたところ「好き・どちらかといったら好き」と回答した生徒は男子17名、女子14名であった。ほとんどの生徒はバレーボールを好意的にとらえているが、少数の非好意的な生徒のためにも「自分もできそうだ」と思える授業展開をしていくことが必要である。

また、これまでの経験から連携プレイからアタックが決まった時のうれしさなど、バレーボールの特性を味わえている生徒が多いことも分かった。

「今回の授業で学びたいこと」は右のような内容が挙げられた。基本的なボール操作に加えて、「正式ルールを学びたい」との声も多かった。生徒たちの実態に沿いながら正式なルールも指導していきたい。

以上のことを踏まえ、小学校で学んできたネット型の学習を土台に、ゲーム条件を正式ルールに近づけながら学習意欲を高めるとともに、個に配慮した手立てを組み、誰もがバレーボールを楽しめる授業展開を構築したいと考える。

事前アンケートによると、小学校高学年では相手コートへのサービスや返球、味方が受けやすいボールをつなぐための基本的なボール操作やチームワークなどを学んでいる。このことを土台にボールコントロール力を高め、相手コートの空いた場所へ返球することや空いた場所を作らないこと、新しい仲間とのチームワークを高め、みんなで楽しむことをねらった学習を展開していきたい。

好き・どちらかといったら好き	嫌い・どちらかといったら嫌い
<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好きだから ・点数を入れたときの感じが好きだから ・自分が活躍できるから ・小学校の授業が楽しかったから ・役割が決まっているから ・テレビで観戦するのが好きだから ・ルールが単純でわかりやすい ・いろいろな戦い方があるから ・チームプレイが好きだから ・身長差が関係ないから ・おもしろいから ・カッコいいから 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレーが続かなかったから ・上手くできない ・痛そうだから ・危ない ・かわりが少ないから

※特に学習したいと思うこと3つ選択	
基本的なパス・トス	21
バレーボールの正式ルール	18
スパイク	17
サービス	16
チームワーク	8
バレーボールを通して高まる体力	8
作戦を考える	5
フェアプレイ	5
チームや自分の課題を解決する	2
バレーボールの歴史	2

(2) 教材観

球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

「ネット型」バレーボールは、ネットをはさんで相対する2チームが、サービス、パス、トス、スパイク、ブロック、レシーブなど、主に手や腕を用いてボールを打ち合い、得点を競い合うスポーツである。

小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦をたてたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。

中学校では、これらの学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようになることが求められる。

したがって、第1学年及び第2学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボール操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようになることが必要である。その際、攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。また、学習に積極的に取り組み、作戦などについての話し合いに参加することや一人一人の違いに応じたプレイなどを認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようにすることも大切である。

以上のことから、チーム内で協力して練習したり、話し合っ課題解決をしていくことで個人やチームの高まりが期待できる教材である。

(3) 教科研究との関わり

① 保健体育の見方・考え方を働かせる問題解決的なプロセスと単元デザイン

学習指導要領において、「体育の見方・考え方」については、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」としている。その「見方・考え方を働かせる学びのプロセス」として以下の5つの視点に重点を置く。

<p>I 課題を把握すること。</p> <ul style="list-style-type: none">・目指す動きと自己の動きの比較による複数の「違い」を把握すること。・目指す動きと自己の動きの違いをとらえ、改善すべきポイントを見付けること。・目指す動きに近づけるためにもっとも重要だと考えられるものを見付け出し、それを課題として設定すること。 <p>II 自己の課題を改善できる練習を選択すること。</p> <p>運動実践の場面で、自己の課題に応じて適切な練習を選ぶこと。</p> <p>III 学習した知識や技能を活用して、自己や仲間の課題に応じて解決すること。</p> <ul style="list-style-type: none">・お互いに出来映えを相互評価し、よりよいものを目指すこと。・作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための適切な関わり方を見付けること。・思考、判断したことを、根拠を示しながら相手に伝えること。 <p>IV 自分の学びを振り返ること。</p> <ul style="list-style-type: none">・学習を振り返り、どのような力が身に付いたかということを実感し、次の場面に役立てること。 <p>V 運動の特性をとらえること。</p> <ul style="list-style-type: none">・各種目の運動のそのものの本質的な価値をとらえること。

② 学びの自覚化

単元を通して、振り返るべき内容を整理し、視点に沿って振り返りを書かせそれに対して教師がフィードバックするような工夫をすることで、生徒にメタ認知させ、次の学習につなげていく。振り返りの視点としては、次のようなものがある。

ア 単元前半、中盤、後半の学習の中で、何がわかったか、何ができるようになったか。	(思考力等)
イ 仲間と協働して解決した場面で、仲間の発言で自分の感覚、行動が変わった点はどこか。	(協調性等)
ウ 単元学習が、今後の学習や他教科・日常の生活のどんなところに生かせることができるか。	(主体性等)

③ 真正な学びの場

ア 自己肯定感を高める場の設定

「他者と共同して楽しむ」という共生の視点のもと、仲間とかかわりながら課題解決する場を設定する。

イ Try and Errorの場面

Try and Errorを繰り返しながら粘り強く取り組む場面を設定する。

3 単元の指導目標及び評価規準

(1) 育成を目指す資質・能力

- ・課題解決に向けて、知識を活用し、基本的な技能を身に付け、運動の取り組み方を工夫し、運動を継続して楽しむための自己の適したかかわり方を見付ける力。(思考力等)
- ・多様な他者の意見に耳を傾け、知恵を持ち寄って共通の課題を達成していく力。(協調性等)
- ・自ら学習の目標を持ち、進め方を見直しながら学習を進め、粘り強く取り組む力。(主体性)

(2) 指導目標

- ・次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること。(知識及び技能)
- ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫させるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- ・積極的に取り組むとともに、作戦などについての話し合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事。
(主体的に学習に取り組む態度)

(3) 評価規準

知識 及び 技能	①特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。 ②技の名称やそれらの技能ポイントについて学習した具体例を挙げている。 ③ゲーム展開のねらいについて学習した具体例を挙げている。
	④味方が操作しやすい位置にボールをつないでいる。 ⑤相手側のコートの中空いた場所にボールを返している。 ⑥相手の攻撃に備えた準備をし、ボールを操作したあとボールに正対している。
思考力 判断力 表現力 等	①改善についてのポイントを発見したり、自己の取り組み方の課題を発見し言葉や文章で表している。 ②体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。
主体的に 取り組む 態度	①学習に積極的に取り組もうとしている。 ②作戦などの話し合いに参加しようとしている。 ③一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとしている。

4 単元の指導計画・評価計画

(1) 単元構造図による指導内容と学習の流れ, 評価の機会計画

		1	2	3	4	5	6
学習の流れ		運動の特性や学習のねらい計画を理解する	ウォーミングアップ スキルアップドリル 今日の学習内容の確認				キャッチバレー② セッターノーキャッチバレーで速いゲーム展開を学習する
			キャッチバレー①でボールへの体の動かし方を復習する	アンダーハンドサービス キャッチバレーボール①	基本のパスを学習する		
		学習の振り返り 次時の学習確認					
		【この単元のゴールの姿は何か】 ◆オリエンテーションを行い、授業のねらいや約束、特性や歴史、学習計画を学習シートに記入する。 ◆授業の場づくり、ウォーミングアップ・スキルアップドリル	【ボールがない時はどのような姿勢なのか】 ◆キャッチバレーボール① ◆ボールをなごときの動き ・オールキャッチ ・セルフジャッジ ・全てツーハンドでボール操作 ・ローテーション	【アンダーハンドサービスはどんな打ち方か】 ◆アンダーハンドサービス	【パスのポイントは何か】 ◆基本のパス(オーバーハンドパス・アンダーハンドパス) ◆タスクゲーム	【チームワークを高めるために必要なことは何か】 ◆キャッチバレーボール② ・セッターノーキャッチ ◆「チームワークを高めるために必要なこと」	【相手コートはどこにどのように返球すればよいのか】 ◆相手コートに空いている場所を共通理解とボールの操作
指導と評価の機会	知識・技能	①特性歴史ねらい約束学習計画 ①評		②技能ポイント ② ¹ 評 _編		② ² 評	③ゲーム展開のねらい ③ ¹ 評
			⑥ボールに正対	⑤空いた場所への返球	⑥評	④ボール操作	
	思考・判断・表現						
	主体的に学習に取り組む態度	①積極的に取り組む				①評 ②話し合いに参加	

		7	8	(9)	10	11	12
学習の流れ	ウォーミングアップ 今日の学習内容の確認 チーム練習						
	キャッチバレー②	キャッチバレー③ レシーブキャッチバレーでさらに速いゲーム展開を学習する			マイチームルールでの対戦を学習する		
	学習の振り返り 次時の学習確認						
	【返球のポイントができたか】 ◆「返球のポイント（大切にしたいこと）」	【みんなが楽しむためのポイントは何か】 ◆キャッチバレーボール③・レシーブキャッチ ◆「みんなが楽しむための練習やゲームのポイント（大切にしたいこと）」	【練習やゲームは楽しめたか】 ◆「みんなが楽しむためのポイント」を意識した練習やゲーム	【返球のポイントを行えたか】 ◆「空いた場所への返球の状態」	【みんながさらに楽しむためのポイントは何か】 ◆マイチームルールバレー	【バレーボールの授業を通して学んだことは何か】 ◆マイチームルールバレー ◆単元の学びの振り返り	
指導と評価の機会	知識・技能					③ ² 評	
		→ ⑤評			→ ④評		
	思考・判断・表現	①ポイント・課題発見 ① ¹ 評		②楽しむための方法を伝える ② ¹ 評	① ² 評		② ² 評
主体的に学習に取り組む態度			→ ②評			→ ③評	
			③違いを認める				

※上付きの数字は評価機会の数を表す

5 本時について（9/12時間）

（1）主 題 キッチバレーボール

（2）指導目標

体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。

（思考力、判断力、表現力等）

（3）評価規準

① 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えることができる。

【思考力、判断力、表現力等】

② 作戦などの話し合いに参加しようとしている。

【主体的に学習に取り組む態度】

（4）指導の構想

新しい仲間と「ネット型」の球技に取り組んで9時間目にあたる。ボールへの恐怖心が先立つ生徒もいることから、ボールが行き交うゲームに慣れることを第一に「ネット型」の特性を学ばせてきた。また、「ネット型」の中でもバレーボールは、思うようにボールをコントロールすることが難しいので「ボールを止めても良い」条件からスタートしゲームの難易度を上げてきた。

本時は相手側コートからの返球の一本目のみをキャッチOKとし、2、3本目をノーキャッチとするゲームの2時間目である。ラリーが続くゲーム展開にならないかもしれないが、このような条件のゲームを中心に据えて授業を組み立て、自分も仲間も楽しめるように互いを気遣った授業展開を構築したい。

① 導入について

前時の学習から課題を設定し、本時は自分も仲間も楽しめるように練習やゲームを行う時間であることを説明し、意識しながら練習やゲームに取り組むことを伝える。

② 展開場面について

パス練習と連携プレイのチーム練習から、心身ともに今日のゲームへの準備をさせていく。

次に、4人対4人のキャッチバレー③を行う。ローテーションにより全員がすべてのポジションと役割を行えるようにする。1セット目のゲーム終了時に今日の「がんばりポイント」がどうかチームで確認し、2セット目のゲームにつなげさせる。この展開場面が真正な学びの場としての「自己肯定感を高める場」、「Try and Errorの場」となる。

③ まとめについて

「自分が楽しかったか」個人、チーム、全体で交流する。次時もそのことを生かして空いた場所をめぐる攻防の中でラリーが続くゲームを行っていけるよう確認する。

(5) 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間 (分)	指導上の留意点および評価 ・指導上の留意点 ○評価
導入	0 3分前なわとびを行う。 1 体操, 整列, あいさつ, 健康観察を行う。 2 学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 楽しい練習やゲームだったか </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> ・「体を温める運動」として状態を記録させる。 ・「体をほぐす運動」して大きくのびのびと行わせる。 ・前時の生徒の振り返りから自然と思考し続けられる学習課題を設定する。
展開	3 チームで練習を行う。 ・パス練習 ・連携プレイ練習 4 4人対4人のキャッチバレー③1セット目を行う。 ・4.5m×9mコート。 ・ローテーションあり。 ・1本目=キャッチャー 2本目=セッター 3本目=アタッカー ・サーブは1本交代。サーブミスは点数にならない。 ・返球は3本で返すこと。1本目, 2本目で返すと点数にはならない。 ・ノーキャッチはレシーバーのみ。 ・キャッチした場所から足を動かしてはいけない。 ・セルフジャッジで行う。 5 1セット目の振り返りを行う。 ・「今日のがんばりポイントはできているか」について振り返る 6 2セット目を行う。 ・ゲーム内容は1セット目と同じ。	37 (42)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も仲間も楽しめるように練習やゲームを行うための時間であることを確認する。 ・左右のコートへの侵入はしないことを徹底させる。 <p>○作戦などの話し合いに参加しようとしているか観察評価。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を積極的に伝えさせる。 ・リーダーにみんなから意見を引き出させる。
終結	7 本時の学習を振り返りまとめを行う。 ・チームミーティングを行う。 ・個人で学習課題に対する考えを記述する。 ・今日の学習を次時に行かしていくことを確認する。 8 整理運動を行う。 9 あいさつを行う。	8 (50)	<p>○体力や技能の程度, 性別等の違いを踏まえて, 仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け, 仲間に伝えることができたか記述内容の評価。</p>